

分野（ 2 ） 気管支ぜん息・COPD患者の日常生活の管理、指導に関する調査研究

研究課題名：②患者教育実践指導のための指導者育成システムの開発及び基盤整備

申請課題名：アレルギー専門患者指導のための指導者育成システムの開発および基盤整備に関する研究

調査研究代表者氏名：赤澤 晃

評価コメント

- ・コメディカルスタッフ養成のためのシステム開発のプロジェクトである。
- ・PAE養成システムの成熟期に入りつつあることは評価できる。
- ・アレルギーエデュケーターとしてコメディカルスタッフを養成し、一つの学会の資格認定を受けるところまで持って来たことは評価したい。
- ・PAEの養成、さらにアドバンス、マスターレベルの育成のためのe-learning教材の作成、研修プログラムの検討など前向きの研究に感心させられた。
- ・このようなアレルギーエデュケーターの制度が根付いたら、社会的にも大変意義のあることである。
- ・専門コメディカルの育成により患者教育が充実することは、医師にとっても患者・家族にとっても望ましいことである。
- ・ほぼ本年度の目標を達成している。
- ・PAEの方々に具体的なメリットが与えられる様な配慮が必要だと思う。
- ・専門性を活かし多職種にPAEを養成するには、それぞれの領域に指導できる人材を養成する必要があるが、同時にそうした人材の処遇を考える必要がでてきたと思う。
- ・今後はPAEの職場環境における位置づけ(看護資格、診療報酬などへの反映)を検討すべき段階に到達していると思われる。
- ・PAEを採用している施設についてもメリットを考えることは出来ないのか。
- ・このような制度を永続させるためにアレルギーエデュケーターが何らかのメリットを得られ、モチベーションが高められるような方法も考えるべきである。
- ・PAEの認定制度が、他の学会との協議でどのように拡大していくか、資格の獲得が職場でどのようなメリットが得られるかが問題で、今後実績を積み上げていって欲しい。
- ・恐らく他の慢性疾患についても、このような試みが行われているかもしれない。もしそうであればその人達と連携して、さらに多くの学会や行政が認めるような普遍的制度を確立するために努力を重ねて欲しい。
- ・内科(アレルギー学会)にも働きかけ小児・成人共に指導できるようなAEを育成すべきと考える。
- ・はたして、3段階の指導レベルが必要か。マスターレベルは医師の指導で行われるべきとも考えられる。